

近畿大学 情報学部

令和7年度 自己点検・評価報告書

KDIX 数理・DS・AI 教育プログラム

(応用基礎レベル)

令和8年5月

## 1. 自己点検・評価の実施

情報学部にて実施している「KDIX 数理・DS・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）（※）」について、情報学部自己点検・評価委員会が自己点検・評価を行った。

※令和5年度認定（認定の有効期限：令和11年3月31日まで）

## 2. 自己点検・評価の対象科目

自己点検・評価の対象の科目は以下の通り。

「確率統計」

「データリテラシー入門」

「基礎線形代数学1」

「基礎微分積分学」

「コンピュータ基礎」

「データ構造とアルゴリズム」

「プログラミング基礎1」

「IoT」

「機械学習概論」

「技術と倫理」

「社会情報学実習1」

「社会情報学実習2」

## 3. 点検項目と評価

実施しているプログラムについて、以下の項目で自己点検・評価を行った。

- ・履修、修得状況
- ・学修成果
- ・学生アンケート等を通じた学生の内容理解度
- ・履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

## 4. 自己点検・評価結果

点検項目	点検結果
履修、修得状況	1・2年次に配当されている授業科目でプログラムが構成されている。プログラムの状況として、入学定員330名に対して令和4年度入学生は79名、令和5年度入学生は51名、令和6年度入学生は94名が修了しており、令和7年度入学生は190名が1年次配当の該当科目を修得している。修了者は増加傾向にあるものの、プログラムを構成する授業科目の中に、情報学部内の選択科目「データリテラシー入門」「機械学習概論」が含まれていることから、履修者

	<p>数にバラつきがあるため、認定教育プログラムであることを丁寧に説明して、学生の履修・修得率を向上させていきたい。</p>
<p>学修成果</p>	<p>モデルカリキュラムの各項目を「機械学習概論」「IoT」「プログラミング基礎1」などを学ぶ科目群で取り扱い、基礎理論だけではなく社会での活用例を交えた結果、学生の理解を深めることになった。講義科目で学んだ事項を基に、企業との連携によるPBL授業（社会情報学実習1・2）では、実社会の様々な問題をテーマとして取り上げ、データ・AI活用の企画・実践・評価を学ぶことができた。プログラムを通じて、情報学部の人材育成の目標である「Society5.0の実現に向けたクリエイティブな先端IT技術者」としての数理・データサイエンス・AIの応用基礎力を修得させることが継続的に行えた。</p>
<p>学生アンケート等を通じた学生の内容理解度</p>	<p>該当科目の授業評価アンケートを集計した結果、「この授業を受けることで、自分の知識や考えが深まりましたか」という設問の回答は、『非常にそう思う』が30.3%、『そう思う』が50.6%、『どちらとも言えない』が15.3%、『そう思わない』が2.8%、『全くそう思わない』が1.1%であった。ポジティブな回答が80%を超えており、授業の理解度は高いと考える。</p>
<p>履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>入学定員330名に対して修了者が79名（令和4年度入学）、51名（令和5年度入学）、94名（令和6年度入学）とバラつきがある。この理由は情報学部内の選択科目である「データリテラシー入門」「機械学習概論」が含まれてことによるが、学生がこのプログラムの趣旨を理解し、必要性を感じることで、選択科目であっても履修者数・割合が向上すると考えている。履修指導・オリエンテーション時には、このプログラムの趣旨等を丁寧に説明し、履修者割合100%を目指したい。</p>

以上